

環境SDGs賞

茨城県立並木中等教育学校

SDGs *a*

次の世代にもつながる社会貢献活動



活動期間

2021年11月～（365回ほど活動）

構成人数

中学生16名・高校生12名

SDGs
テーマ



推薦メッセージ

SDGsαは本校のSSHの活動の一つである生徒発信プロジェクトの一環として精力的に活動しています。SDGsαの最大の特徴としては中1～高2と幅広くメンバーが在籍している点、生徒が主体となって活動を進めており、外部や学校の事務室との連絡、相談も生徒自ら行っている点です。教員がやってしまったほうがスムーズですが、あくまでも生徒が主体で活動を行う有志団体なので生徒自ら行ってくれています。教員としても心強いばかりです。まだまだ発展途上の団体ではありますが、生徒の出してくれた文章、写真を精査し、評価していただけたらと思います。よろしくお願いします。

茨城県立並木中等教育学校 企画研究部長 吉村 大介

活動内容

ペットボトルキャップ回収、古紙回収、カイロ回収の三つを現在主に行っており、2月からはベルマークの回収、9月からはインクカートリッジの回収も始めました。

○ペットボトルキャップ・ベルマーク・インクカートリッジ回収

各教室や生徒の共有スペースなど校内の29か所にキャップ回収のボックスを設置し、ペットボトルを捨てるときにキャップを分別してもらえるようにしました。ポスターを貼り全校生徒に周知させ、最初は学校に関するアンケートでキャップを一票として投票できる仕組みを作ることで回収量を増やしました。そして昨年10月末からは家庭でもキャップ回収に協力してもらい「キャップ回収デー」として朝の始業前に昇降口でキャップ回収をしました。また10月から後期生(高校生)の教室でも回収を始め、より多くのペットボトルキャップを回収しています。

○古紙回収

並木中等ではゴミの分別が活発でなく、掲示期間のすぎた掲示物なども可燃ごみとして捨てられていました。そこでつくば市様に古紙の回収袋をいただき、それを各教室など校内25箇所に設置することにしました。回収ではなく買取をしていただき、買取をしていただいたことで得た収益は森林保全団体等に寄付をします。

活動内容

○カイロ回収

カイロの中に含まれている二価鉄イオンを有効活用すると水質を改善できます。学校の2か所に回収場所を設け、冬の間、生徒が使用したカイロを回収しています。また回収したカイロは私たちの活動に協力してくださっている企業様に送っています。

○ベルマーク回収

毎月のペットボトルキャップ回収の際に、ベルマークも回収しています。ベルマークは一点を1円として寄付することで、教育設備の悪い学校や養護学校、盲学校、聾学校などの援助に回されています。さらにこの寄付は海外にある小規模の日本人学校や途上国の学校など、教育環境の悪い中で学ぶ子どもたちの援助にも使われています。

○インクカートリッジ回収

同じように毎月のペットボトルキャップ回収の際に、インクカートリッジも回収しています。インクカートリッジは、プラスチック部分をコンテナなどにすることで一年で25,000箱もの段ボールを削減でき、ICチップ部分は貴金属リサイクルにまわされます。

01.活動をはじめたきっかけ

一人じゃ踏み出せない一歩も みんなで力を合わせれば踏み出せる

もともと各個人が社会貢献活動に対する興味があり、個人個人で活動をしている人もいました。しかし、自分一人だけだと活動を始めるときに抵抗があったり、いざ始めてみても学校全体を巻き込む活動は難しかったり、大きな活動はすることが出来なかったりしました。このような状況の人たちと一緒に活動が出来たら活動範囲がお互いに広がり、大きな活動が出来るとなると楽しいのではないかと思いSDGsαを立ち上げ、活動を始めました。また、今それぞれが行っている活動をその人が卒業しても校内やそれより広い範囲で続けていきたい(行ってほしい)と思ったのも、SDGsαを立ち上げた理由の1つです。この団体を立ち上げることで自分たちが始めた活動を後輩たちに引き継いでもらうことが出来ます。一人じゃ踏み出せない一歩をみんなの力で踏み出せるようにすること、社会貢献活動を次の世代につなげることに、それがSDGsαの活動をはじめたきっかけです。

02.活動から学んだ・感じたこと

日常生活に少し工夫をするだけで地球を変える行動につながる

校内の認知度も上がり人数が増えてきたことによって、よりやりたい活動を実行に移しやすくなってきて、とても嬉しく思っています。一方で先に挙げたように人数の増加によって管理体制等見直すべきことも多くなってきました。単にSDGsに関係する学びだけではなく、団体を動かして活動をしていくことを通して、その責任や難しさについても学ぶことができています。

日常生活での気づきに少しの工夫をすることで地球を変える行動につながるができると思うし、それをみんなで行うことでもっと大きな変化をもたらせると思うので、今後もSDGsαのメンバー全員で試行錯誤しながら活動をしていきたいと思っています。



03. 継続するためのこれからの工夫

どの学年も対等に意見を出し合い 全員が自主的に活動する

今までは、全員がそれぞれやりたい活動に参加できるよう、縦割りでの活動を行ってきました。しかし、校内におけるSDGsαの認知度が上がったことで団体の人数も増えてきたため、管理体制を見直してより円滑に活動が進められるようにしていきたいと思い、現在5年生を中心に話し合いをしています。具体的には、これまでは上級生が団体を引っ張り下級生はその指示のもと動くことが多かったのですが、今後はどの年次も対等に意見交換を行い、考えの共有をよりしっかりと行えるような雰囲気作りをしていきたいと思います。また、学年として活発に行っている活動は、その学年にある程度一任することで、下級生でも自主的に活動が行えるようにしていきたいと思います。

全体の雰囲気として全員ができる限り躊躇することなく意見を出せるようにすることで、メンバーそれぞれの日常における細かな気づきなどをよりみんなで共有していきたいです。

活動の略歴

- | | | |
|------|------|---|
| 令和3年 | 1 1月 | ペットボトルキャップ回収開始 |
| | 1 2月 | 古紙回収開始
カイロ回収開始（冬のみ） |
| 令和4年 | 4月 | 古紙回収リニューアル（回収ではなく買い取りをしてもらうように） |
| | 7月 | |
| 令和5年 | 1 0月 | ウクライナ支援募金実施 |
| | 1 1月 | ペットボトルキャップ回収パワーアップ（キャップ回収デーの実施） |
| | 2月 | |
| | 5月 | カイロ回収再開 |
| | 7月 | 並木中等SSH成果報告会にて活動報告 |
| | 9月 | 今まで回収してきたペットボトルキャップを寄付&リサイクル工場見学
NPO法人SEA.ing様とのワークショップ実施 |
| | 1 0月 | NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会様とのワークショップ実施
ベルマーク・インクカートリッジ回収開始
各教室のゴミ箱内のペットボトルの分別開始
NPO法人SEA.ing様と大竹海岸にてビーチクリーン実施予定 |